

# 撤回求め、地元署名を提出 住民の過半数が米軍基地設置に反対

## 京丹後市副市長「たいへん重いもの」



3月27日京丹後市に申し入れ・要請する3団体の代表



### ミサイル防衛の名のもとにすめられる京都・米軍レーダー基地 米・GN総会で、戸田事務局長が報告

**3**月27日、3団体（「丹後への米軍基地建設を憂う宇川の会」、「米軍基地建設反対丹後連絡会」、「京都に米軍基地いらない府民の会」）は、京丹後市に住民の過半数を超える米軍基地設置反対署名を提出し、設置協力の撤回を求めました。この日署名を提出したのは、米軍基地が設置される宇川地域の561筆を含め、計6,854筆です。この提出行動には、地元から21人が参加。府民の会からは、戸田事務局長をはじめ3名が参加しました。京丹後市は、大村副市長、安田基地対策室長が対応しました。

冒頭、「憂う会」の三野代表が「安心・安全についての説明がないまま基地建設が進んでいる」と批判。1時間にわたり、要請行動を実施しました。副市長は、説明会は開くべきと考えている。「（住民過半数の）署名はたいへん重いもの」「市長にも伝える」「日本環境管理基準については勉強したい」「九品寺は近すぎる、どういう形で整備されるのか私も気になる」「住居など、まだ正確な情報はない」などと述べました。

3月14日から15日まで、米国カリフォルニア州のサンタバーバラで、「宇宙での軍拡と核に反対するグローバルネットワーク」の総会が開催され、「京都に米軍基地いらない府民の会」の戸田事務局長が、「米国Xバンド・ミサイル防衛レーダーの京都設置問題」として、京都での設置反対運動について報告しました。

「グローバルネットワーク」（GN）は、米国の平和活動家を中心に、イギリスのCND代表を会長とする国際的な核と宇宙軍拡に反対する組織です。

GNは、14日の初日に米国の弾道ミサイル発射実験を指揮するバーデンバーク空軍基地前で抗議の宣伝行動を行いました。夕方には、文化行事と交流があり、日本から2名参加したGN執行委員である藤岡立命館大学教授と戸田事務局長の紹介もありました。

日本からの報告は、全体で3本あった報告の内の1本です。報告は、府民の会の学習会で活用されているパワーポイントを使って約30分間、米軍Xバンドレーダー設置に向けた防衛省の動きや、ミサイル防衛の名の下で北朝鮮の脅威を煽りながら住民工作を進めている現状、住民・府民の反対運動が広がりを持ちつつ根強く進められている事を、参加者に紹介しました。他の報告では、ノルウェーのジャーナリストであるバーナード氏から、米国とネットワークが形成されようとしている宇宙からの偵察・探知のシステムについて、詳細に実態が紹介されました。

GNは、次年度の総会とシンポを京都で開催することを決定し、無人攻撃機問題を重点とする今年のキャンペーンと来年のNPT会議に向けて反核運動を強める事を決定しました。GN役員会では、新役員として、戸田氏に国際アドバイザーの任を要請しました。



・発行：米軍専用レーダー基地の設置の撤回を求める京都府民の会（略称：京都に米軍基地いらない府民の会）

連絡先：京都市中京区壬生仙念町30-2 ラポール京都5階 京都総評内 京都共同センター1気付 電話 075-801-2308 FAX 075-812-4149